



# 子ども医療費助成

## さらなる拡充を求めました。

宮城県が通院助成の対象年齢を引き上げたことを契機に、仙台市でも一昨年、通院助成を中学3年生まで広げました。しかし、全国の自治体の努力からみれば、さらなる拡充が求められています。すげの直子議員は一般質問で、制度の拡充を提案しました。



## 大半の自治体では、所得制限を廃止。

**すげの議員**「仙台市では、今年3月31日時点で1万8796人、13%の子どもが所得制限で助成対象外とされている。対象外のある家庭では、昨年1年間にかかった、お子さんひとりの医療費は26万300円だったとのことだ。小さいころの子どもは、しょっちゅう、けがや病気をするものだ。

所得制限のなかった自治体から引っ越してきた方からは『仙台にきたら助成が受けられなくなった』という声が寄せられている。

全国1741市区町村のなかで所得制限がある自治体は、わずか14.2%だ。子どもにかかる医療費は、親の所得で線引きせず、すべての子どもの権利保障という観点で、支えていくという姿勢が必要ではないか。だからこそ、全国的にも所得制限のない自治体がほとんどだ。本市でも所得制限を撤廃すべきだ」

**郡和子市長**「県市長会を通じて、所得制限を緩和することを県に要請している」

**子供未来局長**「本市の所得制限は、県の制度より制限を緩和しており、本市では、対象年齢の8割以上に助成している」

**すげの議員**「他の自治体は、どんどん先をいっている。財政規模が小さい自治体が仙台市を上回って制度を拡充している」

## ワンコイン負担なくし完全無料に。

**すげの議員**「7年前に導入された一部自己負担金（初診の際に500円）は、やめるべきだ。皮膚科、内科、外科など複数かかればその都度500円かかる。しかも一部自己負担で、医療機関や行政の事務は増える。そもそも一部負担金は、以前にはなかったもの。東京23区や政令市のさいたま市、名古屋市では完全無料だ」

**子供未来局長**「受益者負担の視点から、負担をいただいている」

**すげの議員**「県内では、所得制限も一部負担金もない自治体がほとんどだ。所得制限と自己負担の両方があるのは、本市以外には名取市と富谷市だけ。富谷市は対象を18歳までとしているので、本市の制度は、最も遅れた水準になっている」

**郡市長**「すげの議員の熱い思いは伝わってくるが、限られた予算をどのように措置するかは、精査しなければならない」

## 18歳まで助成対象を拡大しよう。

**すげの議員**「厚労省の調査では、2018年現在で、高校生まで助成対象にしている自治体は541。なかには、大学や専門学校の若者を対象に22歳まで無料にしている自治体も生まれている。18歳まで医療費の心配をせずに病院にかかれるよう求める」

### 医療費助成対象年齢（政令市）

- 大阪市…18歳まで
- 堺市… 18歳まで
- 静岡市…18歳まで
- 浜松市…18歳まで
- 新潟市…18歳まで（入院のみ）

### 宮城県内で18歳まで助成の自治体

塩釜市、多賀城市、角田市、登米市、栗原市、東松島市、富谷市、ほか19町



# 急ごう!

## 小学校の35人以下学級

35人以下学級が中学校で実施となりました。しかし仙台市は、小学校での実施に、なかなか踏み出そうとしません。すげの直子議員は、強く求めました。

### それは、市長の選挙公約

**すげの議員**「35人以下学級は、郡市長も含めて2年前の市長選挙ですべての候補が『必要』とした施策だ。市民はまさか中学校だけ、とは受け止めていない。学校現場や保護者から『来年はもちろん小学校ですよ』との声があるのは、当然だ。学校数が中学校より多いこ

となど、いくつかの課題があるのは承知しているが、だからこそ、まずは小学校での実施を決定し、そのうえでそれらの課題をどうクリアしていくのか検討をすすめなければ、導入がどんどん先延ばしになってしまう」

### 効果は明らかなんだから

**すげの議員**「これまで市は『中学校での導入の効果を検証してから』と答弁してきたが、導入効果のあるなしが議論される時期は、とうに過ぎている。本市議会で市長や教育局から、35人以下学級の現場からの声が紹介されている。『生徒とのコミュニケーションの時間が確保でき、きめ細かな指導ができるようにな

った』『生徒も教室内の圧迫感がなく、リラックスして授業が受けられている。ひとりあたりの発言の機会も増えた』など。中学校で拡充した施策が、小学校には必要ないとはならない」  
**教育長**「子どもと向き合える時間が増えるとともに、教員の多忙化解消にもつながるが、国費負担教員の確保に向け努力する」



先生が産休、育休、病欠休暇…

### 代替教員の配置しつかり

**すげの議員**「学校現場から『産休に入る教員が、自分の代わりが決まらないことを非常に気にしている。おめでたいことなのに、肩身の狭い思いをさせているようにつらい』『教員が2人足りず、やっと1人配置されたけど、1人は未配置のまま。中学校は受験もあるので、保護者から心配されている』などのお話を聞いている。講師の確保で賄うのは、もはや限界だ。一番のかなめは、教員を増やすこと、代替教員の配置に努力を強めることを求める」  
**教育長**「産前産後の休業などに代わる講師などをすみやかに配置することは、大変重要。代替教員の確保に取り組む」

# 若者が輝いている。

## 定時制高校への支援を求めました。

**すげの議員**「先日、定時制課程がある市立高校の仙台工業高校、仙台大志高校にうかがってお話を聞いてきた。いまや勤労学生だけではなく、複雑な家庭環境や育ちのなかで傷を負った子、不登校など集団生活の中で自分の居場所が見つけられずにいた子、外国籍の子、発達障害をもつ子どもたちも多く通っているとのことだ。

そういう子どもたちが、時間をかけても学校に通えるようになり、居場所を見つけて伸びていく姿を見るのは先生方の喜びであり、『伸びしろのある子は、たくさんいるんです』という先生の言葉が印象的だった」

**教育長**「多様な生徒の学びの場となっており、

社会で自立する力を育む重要な役割を担っている」

**すげの議員**「大志高校の独自の要望として、調理室の施設改修がある。施設が古く、ボイラーが何の囲いもなくむき出しになっている。夏は暑く、冬は寒い。早急な改修が必要だ」

**教育長**「学校の大規模改修とあわせて改修するなど検討していく」

**すげの議員**「現場の先生方は、生徒や家庭が抱えてきた困難を考えると、より丁寧なかかわりが求められるのだろうと思う。時には、修学支援の手続きをとるために時間をかけるなど、保護者との信頼関係の構築にも心を尽くしているとのことだった。外国籍の生徒もいる。



通訳の派遣や就職支援員の継続など、必要な人的配置を含め、要望には機敏にしっかりとたえていくことを求めたい」

**教育長**「通訳の派遣による支援など行ってきた。来年度から日本語の科目を設定するなど適切な支援を行っていく」